

小粒の山椒

【2026 ハンドメイドバイシクル展】

1月24～25日に東京千代田区科学技術館で開催された同展は、出展条件としてハンドメイドフレームや独創性ある独自設計のパーツに限定された展示会です。熱心なサイクリストの皆さんの鋭い目に晒される機会として、またカタログの発行日となることも重要なポイントとして当社も毎年参加しており、限られたブース数にかかわらず昨年を上回る来場者数で熱気が感じられました。予約制ですが出展の試乗車で皇居周辺を走るライドやトークショーも開催されています。

▶極限定された展示物の中にも、毎年来場者に響くような「びりりと辛い」製品の展示を当社も心掛けようと努力しています。今年の肝として、昨今のワイドタイヤ装着を前提とした「フロントフォーク・ブレーキ・ホイール」のプロトタイプを展示しました。これはまだ姿でお見せできないチタンフレームへの装着を見据えた製品群です。特徴は「リムブレーキ & スルーアクスル」であること。会場で密かに注目を集めていたようです。

▶これからも大物にはなり得ない小粒でも、びりりと効く製品作りを不言実行していきたい所存です。



▲カタログ配布とともに、多くの来場者の皆様にサンエスオリジナル製品を見ていただける機会となりました。

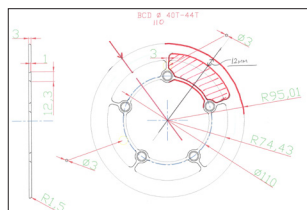
▲開発中の「フォーク・ブレーキ・ホイール」

ワイヤーのようなガード

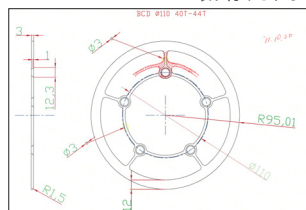
【Dixna ラインガード】

チェーンガードが“必要だ”と思う時、があります。“必要だった”かもしれません。必要だと思った時にはもう遅いのがチェーンガード。しかし、対象となる自転車へ取り付けようと思っても、常に存在する物として、存在感の有りすぎるのも無さすぎるのもどうかと思っていた2011年頃に思いついたのが、ワイヤーのようなラインを描くデザイン。アルミの角を丹念に切削で落とした中3mmの丸ワイヤーのようなライン。必要最低限且つ美しい出立ちをそっと見せるデザインは、自転車を引き立たせる飽きのこない裾除けとなります。

※Dixna ラ・クランクには取り付けられません



▲手書きのデッサンを元に図面化しながら手を加えて行く過程



▲径3mmのラインは位置次第で見え方がかなり違い合いを追求します



▲ガード幅を最小限の12mmに設定しPCDと歯に合わせ7種類を用意



▲丁寧にバフ仕上げを施した表面は細身から上品な輝きを放ちます

シクロクロス東京 2026

【OnebyESU で頑張った選手達】

2月7～8日に東京お台場海浜公園で開催された同レースイベントは、2014年以来の雪降る中での開催となりました。今大会でも多くのOnebyESU ユーザーの姿を見ることができました。写真と共に振り返ります。



◀OnebyESU・KURUの限定手作りニット帽をKURU店主自ら販売。

◀試乗車とハンドルをメインに展示。



▲CK3 ボンシャンスの網嶋一信選手 CK3 優勝 因みにCK3の2位もOnebyESU



▲CK3 ここ最近1位続きの小澤郁篤選手はDNF 後に小林海氏とニコリ



▲今回エンデューロに参加の鳴海颯選手はギリシャ国籍チームのロードレーサー



▲VAPOR CX TEAMの江越未稀選手はWE2 連覇



▲Team cyclers SNELのロードレーサーとして活躍する佐藤光選手はME2トップを狙えるポジションからバンクで11位



◀ME3で7位の中島秀典選手はOnebyESUが応援する埼玉大学1年生



▶ME1の鈴木来入選手はスタート後の砂地で先頭に出るも本調子ではなく10位



▲普段と競争で雰囲気まったく違う全日本覇者の石田唯選手はOnebyESUハンドルを使用しWE1優勝



シクロクロスの拠点、関西では・・・



◀東京お台場が盛り上がっている頃、奈良のくろん池では関西シクロクロスが開催されていました。雪泥0℃でレース中にバイクの細部が凍りついて行くコンディションの中、JFF#807zに乗る岩井商会レーシングの村田憲治選手がE1で優勝され、関西総合ランキング3位を維持されました。

写真はレースを終えた村田選手の#807zです。マスターズチャンプながらエリートに参戦する村田選手は#807zについて、トラクションのかけやすさ、立て直しやすさ、走行ラインの修正が効くなどの優位性があると話されていました。

みなさん、其々の世界で
次のシクロクロスも楽しんで
頑張ってください！